



神社と四季「白銀の境内に祈る」

広島県神社庁報
二葉
 ふ
 た
 ば

第158号

発行所 広島県神社庁
 広島市東区二葉の里
 ☎ (082) 261-0563
 FAX (082) 261-6628



謹賀新年

広島県神社庁長 吉川 通泰

謹みて皇統の弥栄と各御社頭の御栄を寿ぎ奉ります。

昭和二十年未曾有の敗戦により、国土は荒廃し国民はその日の生活にも困窮する中、神社の護持も困難となり各御社頭は疲弊を極めました。

連合国日本の弱体化政策により、神社は国家の手を離れ、我が国の歴史、伝統、文化を否定する占領政策の暴風が吹き荒れる中、民族の誇りをかけ、先輩諸兄が国の往く末を案じ、神社神道を守り御社頭の奉護を期すべく、神社本庁は設立され八十年の節目の年を迎えました。

この先人の熱い不朽の功績に想いを致し、改めて先人諸賢に心よりの敬意を表し感謝申し上げ、神代より続く我が民族の信仰、我が国の伝統・文化を次代に継承すべく努力を重ねてまいる所存です。

本年伊勢では、愈々御山より伐り出された遷宮御用材を、伊勢市民が中心となり多くの方々の奉仕により次々に神宮宮域に奉納される御木曳行事が盛大に行われます。益々御遷宮の機運が高まる中、本県でも奉賛本部発足に向け準備を万全に進めてまいる次第です。

新庁舎の建設は、速谷神社の全面的なご協力と、県下神社関係者のご理解ご助力により、当初の計画通り順調に推移し今夏には竣工移転が完了する見込みです。

役職員一同、皆様の貴重な御淨財により建設される新庁舎を活用し、正確に事務を掌理し神道教化活動をはじめ諸施策の実遂に資するよう適切な運用に努めてまいる所存です。

何卒本年も、神社庁の諸施策に尚一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げ年頭のご挨拶といたします。

午年について

干支の字にはそれぞれ意味があり、自然の中で生命の営みや気（陰陽）の循環などを表し、生活の中に活かしてきました。

「午」の字は「杵」と同じ象形文字で、杵は古代呪器として邪気を祓う道具として用いられていました。

この邪気を祓い退ける祭儀は、悪靈に逆らつて防御することから「午」は「忤」とか「迕」などの意味を持ちます。

この午に「うま」という動物が充てられたことには諸説あります。馬は昔から人と共生し従順な生き物として知られ、神様の乗り物「神馬」として多くの神社でも重用されていましたが、折り合いが悪いと気性荒くたちまち振り落とされるという側面もあります。

荒馬を上手に乗りこなす絶妙な舵取りが必要な年といえるかも知れません。



非公表

非公表

建て替えが進んでいる広島県神社庁の新庁舎は、四月の竣工に向けて地鎮祭と上棟祭がそれぞれ建設地となる廿日市市速谷神社境内地で斎行された。

このうち地鎮祭は、八月二十日午前十一時から神職や工事関係者ら約五十人が参列。修祓、献饌、降神の儀に続き、庁舎建設委員長で速谷神社の櫻井建弥宮司が祝詞を奏上した。続く「地鎮の儀」では設計を担当した一般社団法人日本文化財学研究所の山田岳晴理事らが忌饌を手に刈初を行ったのち、吉川通泰庁長が忌鉗を、施工業者である株式会社増岡組の迫清孝広島本店長が忌鉗を執つて盛砂を崩し穿初を行つて工事の安全と庁舎の無事完成を祈願した。

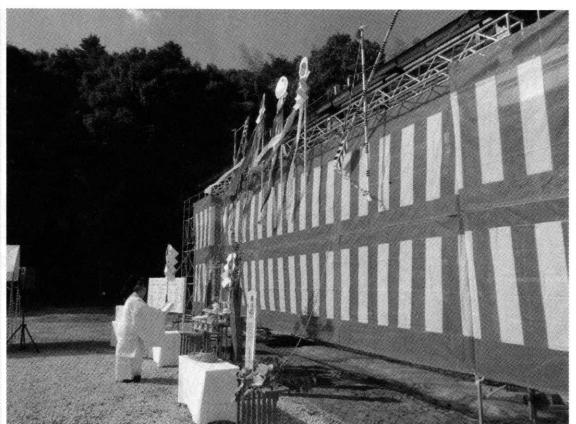
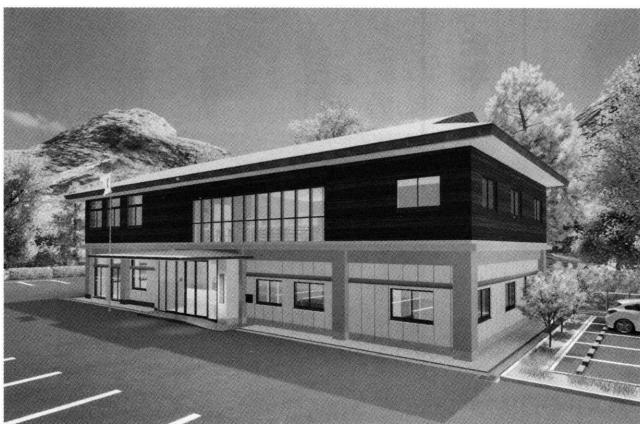
また上棟祭は十一月十日午前十時半から斎行。建物の屋上には幣串三本と両脇に天の弓矢、地の弓矢が飾り立てられ、関係者約五十人が参列。奥茂宣副庁長が祝詞を奏上し、棟上げにあたつて工事安全と建物の堅固長久を祈つた。続く工匠五人が奉仕する上棟の儀では、まず棟木を曳き上げる「曳綱の儀」が行われ、祭壇前に立つ振幣役の工匠が御幣を左右左と振り、その所作に応えて紅白の曳綱を手にした参列者が「エイ・エイ・エイ」と力を合わせて綱を曳いた。また「槌打の儀」では、振幣役が「千歳棟」、「万歳棟」、「永永棟」のかけ声とともに御幣を大きく振つて地面に置かれた盤木に打ち付けると、その音を合図に足場に上つた工匠が「オー」と力強く応じ、棟木を木槌で叩いて棟に固め納めた。さらに「散餅」が



「散錢の儀」では、東西に分れた工匠二人がまず鬼門となる東北の方向、次いで裏鬼門となる南西の方向にそれぞれ足場の上から餅と錢を撒いて災いを祓い、新しい庁舎に災禍が入り込まないように古儀にのつとつて儀式を厳粛に執り行つた。

広島県神社庁の現庁舎は建設から五十年が過ぎ、老朽化と耐震強度不足のため建て替えが長年の課題となつてゐた。神社庁では令和五年に庁舎建設委員会を立ち上げ対応を協議。現状の敷地では駐車スペースが限られる上に、庁舎に向かう道路が狭く工事費が多額に上ることなど総合的に判断し、速谷神社から境内地の提供を受けて新庁舎の建設を進めることとなつた。

新庁舎は鉄骨造り一階建て、延べ床面積六一九・八六m²(約一八八坪)。九月に着工し四月末の完成を予定している。



新庁舎の地鎮祭・上棟祭が盛大に

庁舎建設委員会

神職専門研修会（祭式・衣紋）を受講して

佐伯大竹支部 速谷神社

権禰宜 櫻井一穂

九月六日（土）、神社庁において【祭式・衣紋研修会】が開催され、二十四名が参加しました。平日は神社以外の業務に従事されている方も多く、また秋祭りを控えた時期ということもあり、「しっかりと学びを得て帰りたい」という皆さまの真摯な気持ちが伝わる研修会となりました。

研修冒頭に、飯田誠教化委員長より次のようなお話をあり、深く心に響きました。「参拝者にどうては、正しい作法・そうでない作法は分かりにくいかかもしれません。しかし正しい祭式を執り行なうことは、神様に誠心誠意を尽くすことにほかなりません。人と神様との仲執り持ちである神職だからこそ、何よりも大切にしなければなりません。」このお言葉を胸に刻み、研修に臨むことができたことは大変有意義でした。

最初の講義は【衣紋について】です。祭式講師の福場快之先生より平安時代末期に成立した「衣紋道」についての講義がありました。神職として装束に関する知識や、その着装の美しさを重んじる大切さを、改めて考える機会となりました。講義は「人着装」と「衣紋者」に分かれて行われ、私は「人着装」を選択しました。講義は「人着装」と「衣紋者」に分かれて行われ、私は「人着装」を選択し、女子装束について久保田桂子先生よりご指導いただきました。常服や淨衣を着装する機会はあるものの、唐衣を実際に着装して奉仕した経験はなく、今回体験したこと、祭式作法における雪洞の位置など、動作の意味を具体的に理解することができました。

午後からは【祭式作法について】の講義が行われ、重白将彦先生を中心に、福場先生・久保田先生・渡部公彦先生、そして飯田教化委員長に見守られるという、まるで大学の祭式授業を思わせるような緊張感の中、祝詞後取や玉串後取の作法、宮司の作法などを丁寧に学ぶことができました。経験豊かな参加者のみなさん、流れるようく美しい所作を拝見し大いに感銘を受けましたが、その一方で「ベテランだからこそ陥りやすい『ながら作法』」について重白先生から、指摘をいただき、自身の所作を改めて省みる良い機会にもなりました。

講義の最後には、渡部先生が宮司を、久保田先生が玉串後取を務められ、一連の作法を模範として示されました。その所作の端正さと纏う雰囲気からは、祭式における心地よい緊張感が伝わり、まさに研修冒頭で飯田教化委員長がお示しになられた「仲執り持ち」としての神職の在り方を実感することができました。

今回の研修は、自らの作法を見直す大切な機会となるとともに、広島県神社庁祭式部会の先生方の深い教養と熱意に触れる貴重な時間でもありました。次回の祭式研修会は、新庁舎にて開催される予定だと伺っています。大床や階の作法についても十分に学べる広さが確保されているとのことで、今から大変楽しみにしております。

最後になりましたが、このように貴重な研修の場を設けて下さった教化委員会の皆様に心より御礼申し上げます。ご多忙の中にも関わらず、神社界をより良くしていくこうとされるお気持ちに触れ、深く敬意を表する次第です。





支部番号	支部名	梅鉢紋数	剣梅鉢紋数	丸に梅鉢紋数	加賀梅鉢紋数	その他の梅鉢数	梅紋計数
1	広島市	1	0	0	1	0	2
2	呉	0	0	0	0	0	0
3	三原	0	0	0	0	0	0
4	尾道御調	1	0	0	0	0	1
5	因島瀬戸田	4	0	1	0	0	5
6	沼隈	0	0	0	0	0	0
7	福山	2	1	0	0	0	3
8	府中芦品	3	0	1	0	0	4
9	三次	1	0	0	1	0	2
10	庄原	0	0	0	0	1	1
11	佐伯大竹	1	0	0	0	0	1
12	安芸	0	0	0	0	0	0
13	安佐	1	0	0	0	0	1
14	山県東	0	0	0	0	0	0
15	山県西	0	0	0	0	0	0
16	安芸高田	0	0	0	0	0	0
18	賀茂	0	0	0	0	0	0
19	豊田竹原	1	0	0	0	0	1
20	世羅	2	2	1	0	1	6
21	深安	0	1	0	0	0	1
22	神石	1	0	1	0	0	2
23	甲奴	0	0	0	0	1	1
23	比婆東	0	0	0	0	1	1
24	比婆西	0	0	0	0	0	0
25	その他	1	0	0	0	0	1
	計	18	4	4	2	5	33

梅紋【その3】

◆広島県内の梅紋

県内には現在三十三社の梅紋の神社が存在します。

一番多いのは、①『梅鉢』が十八社、②『剣梅鉢』が四社、③『丸に梅鉢』が四社、④『加賀梅鉢』が二社、その他の梅紋が一づつあります。梅紋の、分布の特徴は、広島県東部（備後）の沿岸部から内陸部にかけて多く分布していることが分かります。

◆広島県内の梅紋分布図

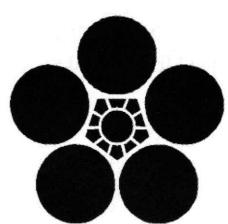
(三十三社 / 一〇四〇社)

◆広島県内の梅紋一覧表

す。広島県内の梅紋は、三十三社中十八社がこの紋を使用し、県内全域に分布しています。広島県の梅紋といえば「梅鉢紋」です。

◆広島県内の主要な梅紋

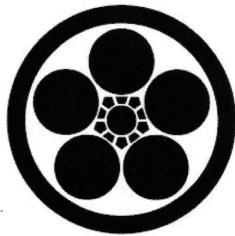
① 梅鉢（うめばち） 天満神社など十八社



「梅鉢紋」の「鉢」は、家紋の中央（花のおしぶのようなもの）が太鼓をたたくときのバチのように見えたことからその名が付きました。古くから使われていたのは「梅花紋」であると言われていますが、江戸時代になると徐々に「梅鉢紋」を使う人が増えていったと言われています。「梅鉢紋」にも、様々な種類があります。

支部名	神社名	宮司名	鎮座地
広島市	天満神社	広島市中区中島町六一	内田 嘉彰
尾道御調	御袖天満宮	尾道市長江一一一六	菅 隆仁
因島瀬戸田	天満神社	尾道市因島原町五〇一	大泰司 加代
因島瀬戸田	天満神社	尾道市因島洲江町二九四	
因島瀬戸田	天満神社	尾道市瀬戸戸田町垂水字天神西二八六	藤本 典久
因島瀬戸田	天満神社	尾道市瀬戸戸田町福田字梅崎九六五	砂田 政輝
福山	天神社	福山市駅家町大字新山字迫城山六八	藤本 典久
福山	天神社	福山市駅家町大字服部本郷二三五	江種 克一
府中芦品	天神社	福山市新市町大字金丸字山手六六三	江種 克一
府中芦品	天神社	府中市府川町三九三	日下 厚志
府中芦品	天神社	府中市三郎丸町五九七	皿海 宏則
三次	佐田神社	三次市三良坂町仁賀二〇九一	石川 紘彦
佐伯大竹	天満神社	廿日市市天神三二一	菅原 修司
安佐	田中山神社	広島市安佐南区安東六一三二	
豊田竹原	天満神社	吳市豊町沖友字下原〇四五	植木 重夫
世羅	菅原神社	世羅郡世羅町大字京丸五六	越智 正浩
神石	天満神社	神石郡神石高原町李三九二	阪口 雄司
その他	天満宮	広島市西区天満町九一七	稻毛 繁男

支部名	神社名	鎮座地	宮司名
福山	天神社	福山市駅家町大字倉光六八〇	三島 吉晴
世羅	天神社	世羅郡世羅町大字西上原一七〇〇	林 幸和
世羅	菅原神社	世羅郡世羅町大字中一二一	渡部 修三
深安	天満神社	福山市神辺町字徳田二一	徳永 淡路

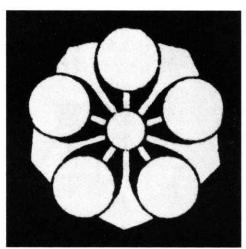


③ 丸に梅鉢（まるにうめばち）

名荷神社など四社

「丸に梅鉢紋」は、「梅鉢紋」のまわりを「○」で囲つたものです。分布は、瀬戸内海島嶼部と備後南部の中山間地域に確認されます。

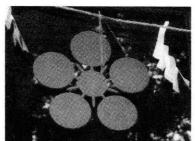
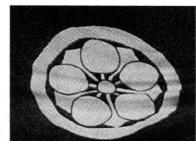
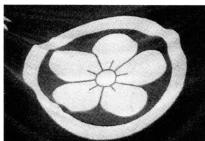
支部名	神社名	鎮座地	宮司名
広島市	尾長天満宮	広島市東区山根町三三一六	渡邊 清臣
三次	天満宮	三次市作木町伊賀和志三六一三	三上 千登勢



② 剣梅鉢（けんうめばち）

天神社など四社

「剣梅鉢紋」は、備後南部に集中して確認されます。家紋の中央花のおしべのようなもの）が、「梅鉢紋」や「加賀梅鉢紋」よりも強調されているのが特徴です。備後南部の神社、特に世羅地域と福山地域にその分布が限定されています。



◆広島県内の特殊な梅紋

変り剣梅鉢（かわりけんうめばち）

菅原神社
庄原市川西町三四七

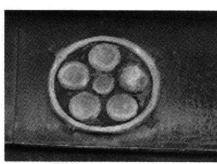
（祭神：菅原道真命
宮司：八谷 覚）

丸に剣梅鉢（まるにけんうめばち）

菅原東支部
庄原市西城町中迫甲三三一
（祭神：大屋比古神）
宮司：伊達正泰

丸に梅花（まるにうめばな）

比婆東支部
野宮神社
庄原市西城町中迫甲三三一
（祭神：大屋比古神）
宮司：伊達正泰



丸に星梅鉢（まるにほしうめばち）

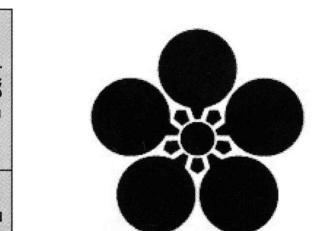
菅原神社
府中市上下町松崎甲二九九

（祭神：菅原大神）
宮司：奥山哲治

丸に星梅鉢（まるにほしうめばち）

菅原神社
府中市上下町松崎甲二九九

（祭神：菅原大神）
宮司：奥山哲治



④ 加賀梅鉢（かがうめばち）

尾長天満宮など二社

「加賀梅鉢紋」は、江戸時代、加賀の国（現在の石川県南部）を治めていた前田家の家紋がこの紋を使っていたことから、加賀地域で多く使用され、全国に広まつたことからこの名称が使われています。広島県内でも現在二社において確認されています。「梅鉢紋」と比べて、中央のおしべが長く飛び出たような形になつているのが特徴です。

支部名	神社名	鎮座地	宮司名
三次	天満宮	三次市作木町伊賀和志三六一三	三上 千登勢

備後宮・吉備津神社（追林貴之宮司）で、令和七年六月二十日に『天皇皇后両陛下幣饌料御下賜奉告祭斎行』が執り行われた。

天皇皇后両陛下には、戦後八十年の広島県行幸啓にあたり、六月十九日に広島平和公園にて、戦没者の御靈を慰靈された。

十九日の夕刻、お泊所において県内六社（嚴島神社・速谷神社・沼名前神社・吉備津神社・広島護國神社・備後護國神社）に「幣饌料」が伝達された。

備後宮・吉備津神社では、翌二十一日朝に「奉告祭」が執り行われた。宮司を始め神職および総代が『駒札』および『唐櫃』を先頭に本殿に参進し、両陛下より賜つた「幣饌料」を神前に奉り、皇室の弥栄と国家国民の長久繁栄を祈念した。

（尾多賀晴悟 通信員）

（神原勇気 通信員）



府中若品支部

「天皇皇后両陛下幣饌料御下賜奉告祭斎行」

福山市新市町の備後宮・吉備津神社（追林貴之宮司）で、令和七年六月二十日に『天皇皇后両陛下幣饌料御下賜奉告祭』が執り行われた。

去る令和六年二月に塩崎神社（神原勇気宮司）の御社殿が火災にて焼失するという出来事がありましたが、現在は地域の皆様方と一緒に再建事業に取り組んでいます。

そのような中、今年も年に一度の秋のお祭り

は、おかげをもちまして、無事に執り行う事ができました。神事の斎行はもちろんのこと、前夜祭でのお神楽奉納行事や例祭当日の子ども神輿巡幸など地域のお祭りの準備はとても大変です。当番組の皆様をはじめ氏子崇敬者の皆様の信心があつてこそ、成り立つものであると実感いたしました。

そして心より感謝の気持ちが沸き起つてきました。

十九日の夕刻、お泊所において県内六社（嚴島神社・速谷神社・沼名前神社・吉備津神社・広島護國神社・備後護國神社）に「幣饌料」が伝達されました。

前夜祭では、当神社の舞姫による「豊栄の舞」の奉奏ができました。神さまへの感謝の気持ちが天に届きますようにと、神さまの舞つくださいました。

尾道では塩田がなくなり、伝統的な塩業は

見られなくなりましたが、神宮で続く塩作りを学ぶことにより、地元の歴史と神社、そして神宮殿復興の願いを込めて舞つくださいました。

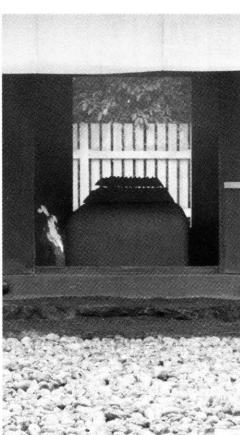
福山支部

「秋の例大祭の大切さを実感」



尾道御調支部

「御塩殿祭を見学」



尾道では塩田がなくなり、伝統的な塩業は見られなくなりましたが、神宮で続く塩作りを学ぶことにより、地元の歴史と神社、そして神宮の大切さを知ることができました。

（郡山龍 通信員）

安芸高田支部

「清神社御神木の一部伐採」

安芸高田市郡山山麓鎮座の清神社（波多野公宮司）は、安芸高田市天然記念物の御神木伐採にあたり、十月十四日氏子や地域からの多くの参列のもと、清祓の神事伐採祭を執り行つた。

樹齢七百年超といわれる御神木は、境内地に空高く聳え、その神々しい姿は氏子をはじめ参詣者からも親しまれ、吉田の変遷世相を見守つてきた。

樹高は四十mを超え、嘗ては六本あつたが、平成十二年の台風により一本が倒伏した。残された五本

は、文化財保護の観点から、長年にわたり市教育委員会と清神社により施肥など樹勢維持のための保護対策等に取組んできた。しかし近年、目立つ枯枝、樹幹の空洞化とも相俟つて傾斜等衰えが進行、枯枝の折損落下、最悪の場合倒木も考えられることがから、教育委員会、文化財保護審議会の所見などに基づき、一部伐採、整枝やむなくとの苦渋の決断に至つた。

伐採後、境内地の景

觀は大きく変わつたが、残された三本の御神木は神社の至宝として後世に伝えていかなければならぬと考へてゐる。

（波多野公一 通信員）



安佐支部

「支部研修旅行で高知へ」

安佐支部（村田和弘支部長）では毎年一度、各地の神社への正式参拝と研修のための旅行をしています。今年は九月三日・四日の二泊二日、総勢五十名ほどで、高知大神宮に参拝しました。

昨年は伊勢参拝で台風に遭つてしましましたが、今年は、幸い穏やかな天気に恵まれました。高知大神宮は、高知の伊勢信仰の中心的な神社として長年崇敬されています。神話にある天照大御神をお助けした「神使」としての鶏の言い伝えが受け継がれ、伊勢神宮同様、高知大神宮においても茶色の美しい鶏たちが放し飼いにされていますし、狛犬ではなく狛鶏として阿形と吽形の雌雄の鶏の像が置かれています。正式参拝では、ひとりひとり玉串奉奠することができます。宮司さまの講話も伺い、大変貴重なひとときを過ごしました。そのほか、

普通寺戒壇巡りや桂浜散策を楽しみ、かつおのたたきに舌鼓を打ち、高知温泉で日頃の疲れを癒やすこともできまして、実に有意義な旅となりました。

（甲斐野欣子 通信員）



山県東支部

「祭式研修会を開催」

令和七年八月二十四日に川本国子支部長の指導のもと支部内神職十名が集まり、北広島町大朝鎮座の枝宮八幡神社（森脇健児宮司）に於いて、山県東支部祭式研修会を行つた。

先づは座学にて神社のあり方、神職としての心構えを中心に研修。神社とは祈りの場であり、日本人が目指すべき先を見据える。ひたすら

神々に心を寄せ、その心を作法にあらわす想いが大切である。

後半は実技。この度は神拝行事をテーマとして三人一組に分かれて順次演習。修祓、大祓詞奏上、神拝詞奏上を立札にて行う。改めて拝の角度、祝詞の持ち方、進行逆行の仕方、回転の方向、笏の持ち方など基本の動きを確認。慣れによつて知らず知らずのうちに乱れてしまつた作法を矯正することができた。

また支部内神職が

堂に会する祭りに向けて祭員同士の連携を深めることができた。普段は一人祭りが多いが今回の研修により知識と想いを共有できた実りのある研修であった。



豊田竹原支部

「重松神社の大名行列が油彩で復活！」

令和七年十一月二十三日、東広島市安芸津町木谷に鎮座する重松神社（大成景俊宮司）に、F-100号の絵画（油彩）が奉納された。木谷出身の画家・平井弘光氏（東光会員功労委員・広島市安芸区在住）が畳二畳ほどのキャンバスに、昭和二十年代の重松神社と大名行列のようすを描かれたのである。

この絵でまず目を引くのは、随兵を乗せた馬である。当時、本物の馬に随兵が乗つて大名行列に加わっていたが、平井氏が子どもの頃実際に目にされた光景である。また、平井氏が面識のあつた神職三名も描かれている。

なお、令和六年に発行された「写真でみる広島の神社」（広島県青年神職会編著）にも、馬に乗つた隨兵が登場している。大名行列の写真が掲載されているが、馬が出されたのは昭和二十一年のみである。今回の絵画によって、昔の大名行列のようすを氏子の皆様に味わつていただきだけでなく、重松神社とその大名行列を伝えてくれる貴重な文化財として大切にしていきたい。

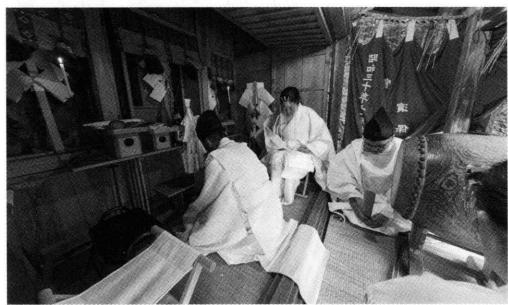


(梶山政孝 通信員)

（波多野公一 通信員）



（田中律子 通信員）



安芸高田

「サンフレッヂエ広島レジーナ必勝祈願」

サツカーレジーナ女子プロリーグのサンフレッヂエ広島レジーナは、今季の「2025/26 WEリーグ」開幕を前に七月三十日、毛利元就ゆかりの安芸高田市吉田町鎮座の清神社（波多野公一宮）で必勝祈願祭を行つた。

監督、選手とチームスタッフなどが参拝した。神事に先立ち、選手代表が絵馬を奉納、栗原明夫権禰宜の必勝祈願の祝詞に続き、定本晴路レジーナ事業本部長、赤井秀一監督、今季の主将を務める地元広島市出身の左山桃子選手が玉串を奉奠し、リーグ戦での健闘・必勝を祈願した。赤井監督が、甲冑姿の毛利元就役からチームの象徴でもある「三矢の訓え」にちなんだ二本の矢を受取り、来賓の安芸高田市藤本悦志市長が、今期の優勝を願う激励の挨拶を行い、必勝祈願祭を無事斎行した。

この須佐神社の氏子数は十三戸であり、信心深い氏子で、年五回のお祭りへ全戸が参られる。中心となる当番がおられるが、氏子皆が協力される。コロナ禍の時、「こんな時こそ、皆で参ろう」と決められていたそうだ。

近年、当番任せや総代任せで氏神様や所守りの神様の大前に参らないということが見受けられる。お祭りは、氏子の皆様・参拝者の皆様の今後の幸せを祈願する。氏子の皆様はお守り戴けるが、さらに大きな力でお守り戴きたいときは、大前にお参りすることである。

この日は前日から雨、朝も雨だったが、祭典の時は傘がいらず、滯りなく執行した。佐倉の地ならではののお祭りだった。

神様の祭りには大前に参拝することを心掛けてもらいたい。

甲奴支部

「須佐神社にて神宮大麻・暦颁布始奉告祭を斎行」

十月四日に上下町佐倉須佐神社（田中律子宮司）において甲奴支部（奥山哲治支部長）の神宮大麻・暦颁布始奉告祭が斎行された。

須佐神社は小規模神社で、参拝者を迎えるには拝殿が狭いと言われていたが、甲奴支部は、コロナ禍以降参拝者が減少していたので、余裕があるほどであった。

この須佐神社の氏子数は十三戸であり、信心深い氏子で、年五回のお祭りへ全戸が参られる。中心となる当番がおられるが、氏子皆が協力される。コロナ禍の時、「こんな時こそ、皆で参ろう」と決められていたそうだ。

近年、当番任せや総代任せで氏神様や所守りの神様の大前に参らないということが見受けられる。お祭りは、氏子の皆様・参拝者の皆様の今後の幸せを祈願する。氏子の皆様はお守り戴けるが、さらに大きな力でお守り戴きたいときは、大前にお参りすることである。

この日は前日から雨、朝も雨だったが、祭典の時は傘がいらず、滯りなく執行した。佐倉の地ならではののお祭りだった。

神様の祭りには大前に参拝することを心掛けてもらいたい。

（田中律子 通信員）



対馬市豊玉町嵯峨の水崎地区に鎮座する入江神社は呉・広長浜鎮座の入江神社(梶山治孝宮司)と深い関わりがある神社です。江戸時代のこと、対馬府中藩主・宗義和公は安芸藩主浅野斎賢公の娘嘉代姫を正室に迎えました。安芸藩主の斎賢公は、義和公の正室となつた嘉代姫との連絡をとるため安芸藩から対馬藩までの連絡船を運航します。その時同行した漁師たちが対馬で獲れる魚の豊富さに驚き、その話を安芸藩に持ち帰ると徐々に対馬に定住する人が増えていき、大正時代には広長浜の入江神社を勧請したことです。

昨年、対馬市水崎地区の子孫の方が広長浜の入江神社に参拝に来られました。昨年、広郷土史研究会の野間秀樹会長が対馬と広長浜の入江神社の関係を調べられ九月の会報に載せたところ、十一月に対馬の漁協の組合長や宮司達が伊勢の新穀感謝祭の帰りに参拝に来られました。会長が調べたところ、水崎地区の盆踊りは広長浜の盆踊りを継承しているそうで、このとき一緒に踊りお互いに感激したそうです。

今年は十月四～六日で広郷土史研究会(野

間秀樹会長)の世話のもと梶山政孝禰宜・対

馬に縁のある人・広長浜の歴史に興味のある人の計六名の有志が対馬市の入江神社を参拝しました。水崎地区では大歓迎を受け、地域を巡つて自然や史跡を訪ね地域同士の縁を感じられたそうです。

(横田光則 通信員)

「広長浜の入江神社と対馬の入江神社の縁」

深安支部

「子供相撲大会」



(岡田順 通信員)

福山市加茂町下加茂の江木神社(岡田順宮司)には境内に古墳と土俵があります。毎年十月第二日曜の例祭日には、地域の青壯年会の神輿が朝出行し、巡行後昼過ぎに戻ります。その後祭典が終わると、土俵と参加する子供達をお祓いし、相撲大会が始まります。三歳から小学高学年までが一部、一部では中学生の勝ち抜き戦となります。小学生までの児童達にはお菓子が配られ、勝ち抜いた中学生は、神輿を先導した初穂の括られた御幣が梵天として授与され、これより二年間その家に栄誉として祀られます。

この大会に参加する子供達の親、またその親の親と代々続く相撲大会。秋祭りとはいえ、まだ夏の暑さが残る境内には、子供の泣き声や笑い声、大人達の応援の声や歓声までもが響きわたり、地域が一体となり楽しんでいました。

編集後記

あけましておめでとうございます。庁報「二葉」158号をお届けいたします。ご寄稿いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。今年は「丙午」、情熱と行動力を象徴する干支とされています。昨年は高市早苗氏が女性として初めて総理大臣に就任し、新しい時代への力強い一步を感じました。私たちも一人ひとりが情熱を持って行動、挑戦していきましょう。

庁報編集委員一同

広島市支部 「広島神輿行列」斎行

去る十一月九日（日）、広島市東区二葉の里に鎮座する広島東照宮（久保田実技宮司）と饒津神社（上田重安宮司代務者）において、「広島神輿行列」が斎行された。

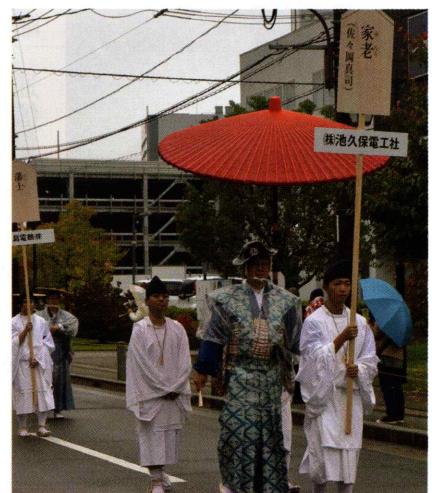
江戸時代、東照宮の御祭神である徳川家康公の没後五十年毎に行なわれていた「通り御祭礼」は、広島市重要文化財の重量一百貫（約一トン）の大神輿を中心とする、広島を代表するお祭りとして賑わった大行列であった。文化十二年（一八一五年）を最後に、幕末の混乱や戦争、そして昭和二十年の原子爆弾投下の影響により三回連続で中止を余儀なくされ、長らく途絶えていたが、平成二十七年十月に二百年ぶりに復活し、当日は約七万人の観客で賑わった。本来なら五十年に一度の「通り御祭礼」で



支部
だより

あるが、後世への継承を目的として、前回から十年、被爆八十周年となる今回、「広島神輿行列」として斎行することになった。

当日は、「壬生田楽団」、「広島東照宮麒麟獅子舞保存会」、ニュー雅楽「紫寶」「瑞龍会」ら諸団体のほか、RCC野球解説者の佐々岡真司氏を含めた約三百名が時代装束を身にまとい参加した。十時三十分に広島東照宮にて開会式を実施。早朝より雨が降り続いていたが、出発時刻となる十一時頃には小雨となり、予定通り神輿行列が行なわれた。約六百メートルの道のりを渡御し、十二時に饒



津神社へ到着。大神輿の前で久保田宮司による祝詞奏上、続いて玉串拝礼が厳かに執り行なわれた。渡御の際には雨除けのビニールがかけられていたが、この頃には雨も止み、還御ではビニールを取り外した本来の姿で行なわれた。十三時に饒津神社を出発し、十四時に広島東照宮へ無事到着。鳥居前で大きな掛け声と共に大神輿が振り動かされると、観衆から拍手や歓声が湧き上がった。

同日、東照宮境内では伝統文化ステージや縁日コーナー、文化体験が楽しめる「広島江戸祭り」を実施。さらに神社前にぎわい広場には、飲食・物販ブースが設置され、約二万人の来場者で賑わいをみせた。

（池田憲明 通信員）